

事務所スタッフ独り言7 ベンジャミン・ウイテカー

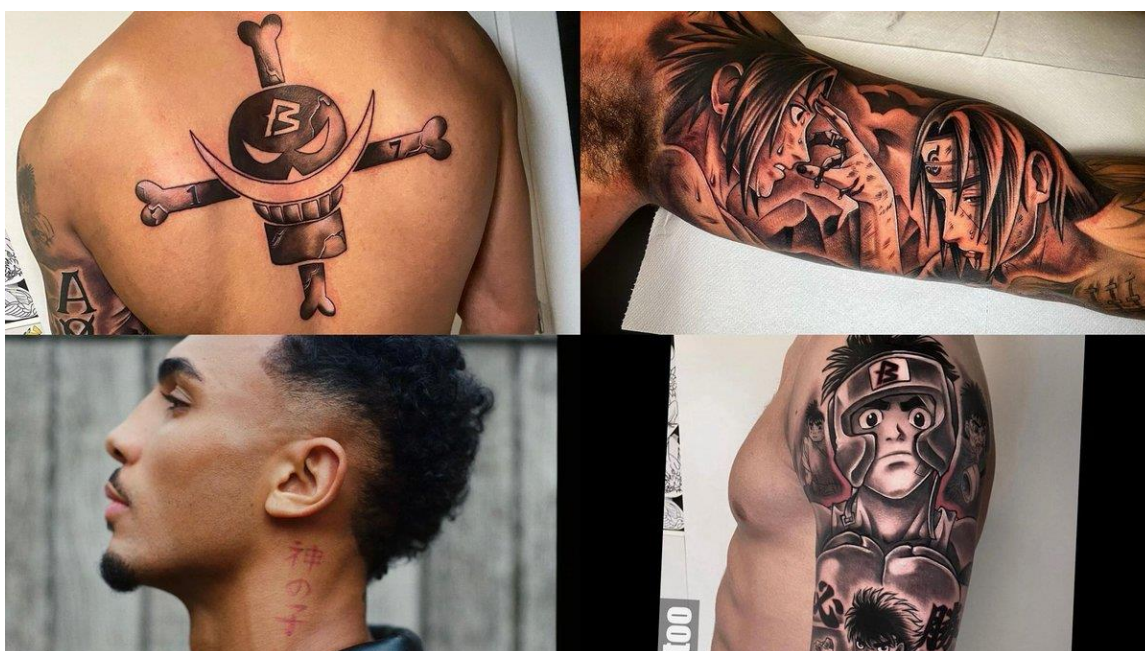
6月15日、ロンドンのセルハースト・パークでIBF ライトヘビー級決定戦が行われ、ベン・ウイテカーが3-0で王座に着いた。今日はこの話をしよう。

2022年7月デビュー、これまで7戦全勝5KO。7戦目に8ラウンド判定まで行って連続KOが止まった。この男、変態的ファイターとか舐めプがオンパレードで嘗てのナジーム・ハメドの再来と言われたりしているらしい。観ないと解らないがハメドが天性の身体能力(勿論超鍛えているが)によるものだったのに対し、ウイテカーのそれは歴として鍛え上げられた身体によるものであることが解る。彼は東京オリンピックのボクシング、ライトヘビー級で銀メダリストだったのだ。表彰式にそのメダルを掛けずに表彰台に上がり、理由を「銀メダルを取れたのでなく、金メダルを取れなかった」と自分を許せなかった逸話が残る。

子供の頃に母親にダンスを進められたことからリズム感抜群(多分天性のものがある)でダンスしながらボクシングパンチにつなげる流雅さを持っている。舐めプではあるが明らかにハメドとは異なる。東京オリンピックに来たからなのかその前からなのか定かでないが日本大好きがガウンやタトゥーにあふれ出ている。



デビュー戦のガウン：なぜか「必勝」の文字



ベンジャミンの刺青 左上：漫画 one piece の白髭オヤジ、右上：漫画 naruto、右下：はじめの一步

どうしてあんな動きが可能なのか専門筋は説明がつかないから 30 年前のハメド同様、ボクシング正統派からは煙たがられるのだろうが、素人のこちらから見れば日々の鍛錬が可能にしている動きではある。身長 190 c m で細身ながら鍛え上げ抜かれた精悍な身体とそこから繰り出される動作は井上尚弥を彷彿とさせるものを備えている。井上やウイテカーのような洗練されたボクシングスタイルがボクシング界を変えていくのだろう。ハメドより数段上のクラスであるからダンシングボクシングスタイルがどこまで通用するのか楽しみな選手だなあ。



8 戦目で IBF ライトヘビー級ベルト奪取